第５回　2013 年 11 月 5 日（火）

大阪湾の生き物と環境

講師：**田中広樹**（たなかひろき）さん
海遊館　学芸員

海遊館でアザラシ、ペンギン、ジンベエザメを 8 年担当後、事務職に。開催中のウミウシ写真展では展示中の生きたウミウシの飼育を担当。
ネイチャーおおさか*でのボランティア活動歴 18 年。チリメンモンスターWEB 図鑑も担当。「今回はネイチャーおおさかの『海の観察会』から、大阪湾の隠れた魅力を存分に味わえる“海辺にふれる場所”“生き物観察ポイント”を紹介します」動画も交えた大阪湾バーチャルツアーの開始です。
＊公益社団法人 大阪自然環境保全協会

大阪湾の入り口は紀淡海峡の友が島の対岸、和歌山市の加太海岸。ここから始めましょう。

（　）内：吹田市からの所要時間（電車）と往復の交通費

◆豊かな生き物の加太海岸･･･城ケ崎の広大な磯

加太海岸のいいところは洗濯板のような広い磯があること。黒潮の影響もあって豊かな生物層が見られます。潮だまりで見つけたイソギンチャクに指を突っ込めるか？と中学生に根性試し。指を突っ込むと潮を噴き出します。1 ㎝ぐらいのヤドカリもいっぱい。フィルムケースのふたに穴をあけて熱湯を満たし、ヤドカリの貝殻の先だけを浸けると、熱いので慌てて貝殻から出てきます。裸のヤドカリは柔らかく、巻き貝に合わせて体が右に曲がっています。観察後、貝殻を置いてやるとすぐにお尻から入ります。交尾前ガードといって、オスがメスを引きずって歩く習性があります。メスが前夫の卵を産んだら交接しようと待っているのです。

海の宝石アオウミウシは、青色が美しく黄色の模様に黒の点々、触覚とエラが赤で派手な格好です。これは「自分はおいしくないよ」との表現らしいです。一番人気はアメフラシ。巻き貝の一種です。見られるのは春。初夏にタマゴを産み 7 月にはいません。カタツムリと同じ雌雄同体です。岩にへばりついているのは、ナマコで岩ノリを食べています。潮が満ちてきたら磯は海の底。おすすめの時期は春、または秋。吹田から遠いのですが行く価値があります。（2 時間 6 分徒歩 35 分、2,680 円、車 1 時間 40 分）

◆アメフラシの宝庫･･･岬町　長松海岸

城ケ崎の磯の生物相よりやや少ないのですが、巨大アメフラシの宝庫です。身を守るため、赤紫色の粘液を出しています。また海の宝石ウミウシを目にします。ウミフクロウ、コノハダウミウシ、アカメウミウシなど。みんなの嫌われ者フナムシがいます。これは落ち葉を食べるダンゴムシの仲間で、海辺をきれいにしているんです。観察会ではマダコを見つけることがあります。マンガのタコは頭に鉢巻きですが、そこは内臓なので腹巻きですね。脳は目と目の間にあります。ウニもいます。ウニは海につけるとトゲの間からニョロ、ニョロと足を出して歩きます。解剖して味見。食べるのはウニの卵巣や精巣なんですが、おいしい！4、5 時間ほどの観察で、潮が満ちて磯は水に没します。ウミウシなどは干潮の前後 1 時間しか見られません。おすすめの時期は、春～初夏。（1 時間 19 分徒歩 25 分、2,340 円、車 1 時間 20 分）

◆ウミホタルの観察･･･岬町せんなん里海公園

砂浜にした海水浴場で、シャワーなどが整備され、シュノーケリングならおすすめです。5～10 種の魚の群れや、海藻のなかに花のように開くイソギンチャクがみられます。楽しみはウミホタル。お昼にペットボトルでワナを作り、ひもをつけて仕掛けると、日没と同時に採れ始めます。ミジンコの仲間で 2、3 ㎜。飛行機雲のように体の外に光る液を流し出すので、海水が光ります。これが外敵から身を守るための目くらましなのです。餌は魚肉ソーセージ。生息条件は水がきれいなことなので、河口から離れた砂浜にいます。夜の観察になるので、ここは駅から近いし東屋や街灯があるのでおすすめです。6 月頃からも観察できますが、まだ小さいし、暗くなるのが遅く帰宅が深夜になるので、個体が大きくて、夜、早目に観察できる 9 月末～10 月がいいでしょう。（1 時間 29 分徒歩 20 分、2,340 円、車 1 時間 16 分）

◆府内最大規模の干潟･･･泉南市男里川河口干潟

干潟はカニの宝庫です。ハクセンシオマネキが、片方の 3 ㎝もあるハサミで白い扇を振るような仕草をしています。潮を招いているのではなく、大きなハサミを見せびらかして雌を招いているのです。雄にも誇示しています。雌のハサミは両方とも小さく、雄だけが大小のハサミを持つ珍しい生き物です。しかし餌を食べるとき雌は両手を使うのに、雄は片方の小さいハサ

ミのみ。雌の倍の時間をかけて食べます。泥の中の微細藻類をなめ、食べかすの砂団子をしごき取る動作を繰り返します。潮が満ちてくると穴に入り、砂団子で蓋をします。絶滅危惧種ですが干潟があれば生きていけます。同じ絶滅危惧種のシオマネキは、大阪湾ではここにしかいません。6 cmほどの赤いハサミは迫力があります。

ムツゴロウの仲間のトビハゼが復活してきています。工場排水や下水道の影響で姿を消していましたが､2000年を過ぎた頃から年に1匹、2 匹と姿を見せていました。ここ数年、水際でじっとしている様子が観察できます。川の水がきれいになってきたのでしょう。

干潟は渡り鳥の休憩地であり楽園です。シギやチドリは夏にシベリアで子育てをして、秋に東南アジアに向かいます。諫早湾の干拓後、これまで飛来していなかったズグロカモメが飛来しています。渡り鳥の中継地として日本の干潟は重要です。この干潟を潰すと元に戻りません。人工干潟の成功例はありません。生き物の密度、安定性が全く違うのです。美味しいお土産はアオノリ、ワカメ。おすすめの時期は春とハゼ釣りが楽しめる秋です。(1 時間 17 分徒歩 20 分、2,140 円、車 1 時間 6 分)

◆漁業体験･･･泉南市岡田漁協

関空の正面。8 人以上集まれば 5,500 円で漁業体験とＢＢＱができます。アナゴ、カワハギ、ガザミ、運がよいとスナメリの群れを見ることができます。おすすめの時期は春と秋。(1 時間 14 分徒歩 15 分、2,140 円、車 58 分)

◆カニ釣りのメッカ･･･貝塚市・近木川河口干潟

護岸からアシ原にかけて、大人が夢中になってカニ釣りをしています。釣っているのはハマガニ。餌は沢庵。カニがちぎろうとしてちぎれない硬さが絶妙なんですね。カニははさむと力を弱めないのでよく釣れます。近木川は汚い川で有名だったので食べる人は少ないですね。キャッチ＆リリースしています。釣れなくてがっかりの子どもには、手づかみできるケフサイソガニがいます。おすすめ時期は６～９月。早いとカニが巣穴から出てないです。(1 時間 3 分徒歩 20 分、1,980 円、車 56 分)

◆都会のオアシス･･･堺市友海（ゆかい）ビーチ

和川の河口付近で、2012 年は 1 万匹のアユが遡上しました。生物共生型護岸には 3～7 cmほどのイシガレイとヒメハゼの幼魚、ウナギの幼魚がいます。また砂の中の宝物ヤマトシジミは 100 円硬貨より大きい。ヤマトシジミは水をきれいにしてくれます。いま大阪湾生き物一斉調査として人工干潟での生き物の出現種数を調べています。おすすめ時期は春から初夏。(4 分徒歩 15 分、1,300 円、車 38 分)

◆吹田の人の海に･･･大阪市西淀川区矢倉干潟

ハクセンシオマネキが復活してきています。テッポウエビもいます。神崎川河口の貴重な干潟です。吹田からは神崎川を下って行けますので、吹田の人には近い海ですが徒歩 35 分は遠いですね。(43 分徒歩 35 分、700 円、車 27 分)

◆市民が守った鳥獣保護区･･･西宮市甲子園浜

昭和 40 年代、地元の主婦たちが裁判を起こして守った浜で、国指定の鳥獣保護区になっています。巨大なイシガニやテッポウエビ、ミドリガイなどがいます。渡り鳥の飛来する 4、5 月には立入禁止区域が指定されますが、おすすめの時期は 4～6 月、9 月の新月、満月の潮の引く日です。(42 分徒歩 15 分、960 円、車 27 分)

◆まとめとして･･･大阪湾は魚庭の海

大阪湾はきたない？大阪湾の魚は食べられない？一時期そうだったし、今も部分的に汚い所がありますが、生き物は増え、かつて赤潮が発生した大阪湾はきれいになってきています。子どもたちと生き物の観察をしてほしいと思います。生息している生き物を知れば知るほど抵抗が少なくなります。お願い、大阪湾の悪口を言わないでね。

誰もがふる里を大切にするように、里海も大切にしましょう。大阪湾は魚庭の海（なにわのうみ）です。下水道が整備されたからといって何でも流してよいのではありません。車を洗車した洗剤や油は雨水と一緒にそのまま処理されずに海に流れていきます。大阪湾の自然環境保全のために、環境教育のために私たちと一緒に活動しませんか？大阪湾であいましょう！

①ムラサキウニ　②アメフラシ
③ハクセンシオマネキ　④ヤマトシジミ